

## 審査の結果の要旨

氏名 大西 晶子

留学生の受け入れは、大学の国際化やグローバル人材の育成と関連して拡大してきた。その結果、留学生の多様化が進んでおり、大学における留学生支援のあり方が改めて問われている。そこで本論文は、国際化する大学に求められる留学生支援サービスとはどのようなものかを明らかにすることを目的とした。論文は、留学生政策と留学生支援の取り組みの変遷を整理し、課題を明らかにする第Ⅰ部、多文化社会における心理支援について検討する第Ⅱ部、日本の大学の留学生支援の現状を検討する第Ⅲ部、留学生の学生支援サービス利用の実態を明らかにする第Ⅳ部、留学生のサービスへの期待を検討する第Ⅴ部、結果を総合して多様性に対応する学生支援サービスを提案する第Ⅵ部から構成される。

第Ⅰ部 1章では留学生支援体制の整備が国主導の留学生政策に影響を受けてきた経緯とその問題点を示した。第2章では本研究の論点を提示、さらにコミュニティ心理学的視点を重視した研究全体の方法論的特徴を示した。第Ⅱ部 3章では援助要請行動と多文化カウンセリングの観点から心理支援における文化の取り扱い方を整理し、4章では日本における多文化に対応したサービス実施の課題を、援助専門職への面接調査(17名)を通じて明らかにした。

第Ⅲ部 5章では留学生への学生支援サービスの提供に関する国内外の研究を概観し、留学生の多様性に留意することと、ニーズに適合したサービスの構築が課題であることを示した。6章では留学生受け入れ数の多い国内の大学の学生相談機関(53校)を対象とした質問紙調査より、留学生支援を通常の学生相談とは別枠で担う大学が比較的多くみられること、また留学生対応に関する基本的モデルが不在であることを指摘した。7章では、学生相談従事者(51名)への質問紙調査より、サービス提供者側の留学生対応への戸惑い・不安の大きさや留学生対応には特有の能力が必要であるとする認識の強さを示した。

第Ⅳ部 8章では質問紙調査(留学生414名)により、留学生の来日後の困難体験と相談資源利用状況を検討し、困難体験度や資源の使い分けのパターンが出身地域によって異なることを示した。9章ではA大学の留学生を対象とする相談室の実践活動を分析し、個別相談や心理支援に偏らないサービスの多機能性が、ニーズの多様性や変容への対応を可能とすることを示した。第Ⅴ部 10章では質問紙調査(留学生392名)により、留学生の学生支援サービスの利用障壁として、サービス内容理解不足、スティグマへの心配、文化的呼応性懸念、援助関係形成不安の4つを明らかにし、各障壁認知の程度が出身地域により異なることを示した。11章では面接調査(留学生18名)によりサービス利用のプロセスを検討、留学生の学生支援サービス利用の2段階モデルを生成し、続く第12章で留学生の面接事例を用いてモデルの検討を行った。

第Ⅵ部 13章では得られた知見を整理し、多様性に対応可能な学生支援サービスを提案した。本論文は、既存の留学生支援サービスの課題を多面的に検討し、留学生のニーズの多様性とサービス提供の仕組みに留意する重要性を指摘、これらを踏まえながら、より適切なサービスの構築において大学が担う役割を具体的に提示した点で特に意義が認められる。よって、本論文は、博士(教育学)の学位を授与するに相応しいものと判断された。